



杏林

KYORIN DAIGAKU SHIMBUN

大学新聞

- 1 - 2 面 データサイエンス教育の現状
- 3 - 7 面 地域経済や地域医療などへの貢献
- ・東伊豆町のウェルネスツーリズムを学生が後押し
 - ・三鷹の地域振興に学生が一役
 - ・子どもたちにがんの理解を深める教育を
 - ・子どもの人生に寄り添った医療を
 - ・児童に朝ごはん提供
- 8 面 リレーエッセイ (2) ・健康ひとくちメモ (29)



時代と共に 地域と共に

気候変動や感染症、紛争の多発や格差の拡大、そしてITの進化やAIの普及……。私たちは世界的に進む急激な変化の時代に生きています。そうした中で日本では大学の国際的な地位が低下し、少子高齢化と共に18歳人口が急速に減少しています。今、この国の大学教育は歴史上かつてないほどの変革が求められ、杏林大学もこの地に存在する意味や役割が問われています。本学は未来を担う学生たちをどのように育てて世に送り出そうとしているのか。そのために、どんな教育研究、社会貢献、そして医療提供を行っているのか。今号では、杏林大学の存在価値を再発見し、将来あるべき姿にヒントを与えてくれそうな取り組みに目を向けてみます。



保健学部臨床検査技術学科の4年生に深層学習プログラミングの解説をする坪下教授



総合政策学部1年生「情報リテラシーB」の授業

時代
地域

杏林大の データサイエンス教育 社会で活躍する基礎を固めよう

データサイエンス教育研究センター長
坪下 幸寛

学部横断で データサイエンスを学ぶ

データサイエンスは、多様かつ膨大なデータから、人類にとって有益な知見を導き出すための学際的な領域で、その基礎的な素養を備えた人材の育成は大学教育において急務となっています。このため本学では

2022年10月に「杏林大学 データサイエンス教育研究センター」を設置しました。付属病院のある総合大学として、学部横断的にデータサイエンスを活用できる人材を育てること、そしてデータサイエンス関連分野の研究を進めることを目的としています。

「データを分析して有益な知見を導き出す」。これは、一見あたりまえのことで、伝統的

な自然科学が何百年も行ってきたことですが、伝統的な自然科学と今注目を集めている「データサイエンス」では何が違うのでしょうか？それは、情報通信技術(ICT)の急速な発達にあると言えます。ICTの急速な発達によって、人類の扱うことのできるデータ量は飛躍的に向上しました。エクサバイト(100京バイト)を超えるデータはビッグデータと呼

ばれていますが、伝統的な科学者と現在のデータサイエンティストの違いは、高性能のコンピュータを利用できること、そしてこのビッグデータの活用が求められることです。

さらに、コンピュータの性能の向上とビッグデータの台頭はAIの急速な発達を促しました。このAIの台頭も近年データサイエンスが注目される要因の一つとなっています。



数理・データサイエンス・AI
教育プログラム 認定制度
リテラシーレベル



MDASH
Literacy

認定有効期限 2027年3月31日まで



データサイエンス教育研究センター長
坪下 幸寛 (つばした ゆきひろ)

京都大学工学部精密工学科卒業、同大学大学院工学研究科精密工学専攻 修士課程修了、東京大学新領域創成科学研究科複雑理工学専攻博士課程修了。富士フイルム(株)画像技術センターで医用画像AIの研究・開発などに携わる。
2021年4月杏林大学着任

独自の研究・成果

保健学部臨床検査技術学科の大
河戸光章准教授との共同研究で、細胞顕微鏡画像から子宮頸がんの自動分類を行うAIの研究を進めています。子宮頸がんの検診は、いまだに顕微鏡を使った目視による形が主流です。その点、保健学部は細胞診の顕微鏡画像のデジタルデータをたくさん持っており、この豊富なデータとAI手法の一つである深層学習を組み合わせることで高い性能が期待できます。AIを用いた新たな子宮頸がん検査への道筋を描けるものと期待しています。

すなわち、21世紀において、「データを分析して有益な知見を導き出す」ためには、データ分析に必要な伝統的学問である統計学等の知識に加え、情報処理、AIなどの情報科学系の知識を使う力やビッグデータを現場で使える形に変え、実装・運用する力が必要となっているのです。

行政も動き出しています。文部科学省は「AI戦略2019」の中で「数理・データサイエンス・AI」を理解し、活用できる人材が必要だとして、大学、短期大学、高等専門学校の教育プログラムを認定する「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度(MDASH)」を創設しました。現在は217件の大学・高専の教育プログラムが「MDASHリテラシーレベル」の認定を受けています。

本学も2021年にデータサイエンス標準教育プログラムを立ち上げてリテラシーレベルの認定を獲得しました。今後もデータサイエンス教育研究センターでは、ITリテラシー、情報処理、情報科学、AI、統計学をわかりやすく、実践的に教えることで、学部横断的にデータサイエンスを活用できる人材の育成を行います。

杏林大の特徴的な教育手法やメソッド

本学の「データサイエンス標準教育プログラム」の特徴は、数理・データサイエンス・AIに関連の深い既存の授業(数学、統計学、ITリテラシー科目等)に、「MDASHリテラシーレベル」で不可欠な学習要件をオンデ

マンド講義で補う形で科目を構成することにより、文科省が定めた学修水準をクリアしていることです。

2〜3の講義で全ての学部・学科に対応している大学・高専が多い中で、我々の教育プログラムは多様な学部・学科にきめ細かい教育を施すことができる授業カリキュラムとなっています。オンデマンド講義のために開発したビデオ教材はセンターで独自に開発したもので、現在も毎年のフィードバックを反映しながら改良を続けています。

現状の課題・教員の悩み

数学が苦手な学生、特に文系でほとんど数学の勉強をしてこなかった学生に対して、統計的な考え方や、分析手法の数理的な側面をどのように教えるか日々試行錯誤を続けています。あまり数学的な理屈を前面に押し出してしまうと嫌になってしまう学生もたくさんいるでしょうが、過度に単純化して教えるのも何か違うような気がします。最近では文系だからといって「数式を極力利用しないで説明する」のではなく、必要な数式はしっかり見せる、そして数式の持つイメージや意味をしっかりと伝えるのがよいと思っています。

授業や研究に対する学生の反応

この4月から総合政策学部ではリテラシーレベルから一つ進んだ応用基礎レベルに対応した新たな講義が始まりました。これらの

授業は選択科目であり、文系学部でどの程度希望者がいるのか不安がありましたが、二つの授業共に50名を超える学生が集まりました。総合政策学部では、データデザインプログラムというデータサイエンスになじみの深い教育プログラムが前年度から開始されていることもあり、学生たちのデータサイエンスに対する関心の高さを感じています。

将来に向けた教育・研究

教育に関するセンターとしての目標は、「MDASHリテラシーレベル」の認定を継続することと、リテラシーレベルの次のレベルである「MDASH応用基礎レベル」の認定を獲得することです。文科省の認定を獲得・継続することは、教育の質の担保につながるものと考えています。また、MDASHの認定を獲得するとプログラム修了者に対して、その学修成果の証明として修了証を発行することができるため、就職活動等を控えた学生の励みにもなっていると思います。

個人的に果たしていきたい目標は、学生が「受けて良かった。勉強になった。賢くなった」と思える「良い授業」をすることです。これは一朝一夕にはできないことですが、少しずつ理想に近づいていければ良いと思っています。そのうえで、データサイエンス・AIに興味を持つ学生が増えて、AIを使いこなすことのできる、AIに置き換えられないスキルを有するデジタル人材を多く輩出していきたいと思っています。

ビッグデータ・AI時代の学生におくる

データサイエンス学習のすすめ

気候変動、感染症、貧困、紛争
先行きの見えない世界で
あなたの頼りになるのは
データをあつかう力です。

① データサイエンスってなんだ？

インターネットと電子機器の急速な進化によって、蓄積された大量のデータ（ビッグデータ）をもとに人工知能（AI）を使って、短い時間で複雑な分析ができるようになりました。

ビッグデータ×AIが活躍する3つの場面

実は、あなたも、気付かないうちにビッグデータやAIの恩恵を受けているかもしれません。

わたしたちには

データを使いこなす力が必要だ

こうした技術は、データサイエンスという、データに関する科学の知識が基礎になっています。そして、ビッグデータやAIがわたしたちの暮らしに身近な今の時代だからこそ、データサイエンスを学び、データとうまく付き合うためのリテラシーやITスキルを身につける必要があるのです。

『予測』
過去の気象データから将来の天気をより正確に予測

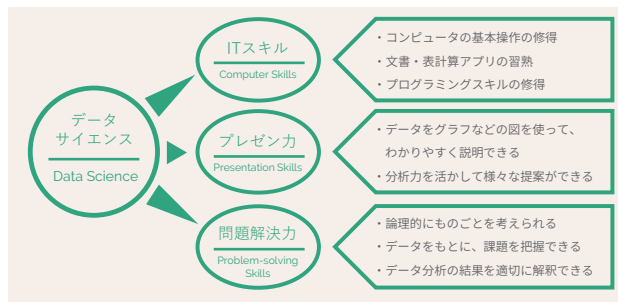
『分類』
特定の病気の画像を大量に学習し患者さんが病気かどうか診断を補助

『生成』
膨大な言葉の組み合わせからよりわかりやすい文章に自動で翻訳

② こんなところで役に立つ！データサイエンス

データサイエンスを学んでおくと、いろんな場面で役に立ちます。

データをあつかう素養を身につけることは、大学生活だけでなく、将来の就職活動やその先の未来を切り拓いていく糸口にもなるのです。



③ 杏林大学でデータサイエンスの基礎を学ぼう！

全学部でデータサイエンスを学べる教育プログラムが用意されています。詳しくは、下記URLより「杏林大学データサイエンス標準教育プログラムについて」をご覧ください。プログラム概要URL: <https://www.kyorin-u.ac.jp/univ/ds/mdash/program.html>

2023年度 おもなデータサイエンス関連科目

医学部 情報科学	保健学部
臨床検査技術学科 データサイエンスリテラシー	看護学科・看護学専攻 情報処理論 看護学科・看護実践教育専攻 情報科学 臨床工学科 計測観測 診療放射線技術学科 基礎画像工学
総合政策学部 情報リテラシー (金学科)	グローバルデザイン学科 情報処理論 グローバルデザイン学科 情報処理論 グローバルデザイン学科 情報処理論 グローバルデザイン学科 情報処理論
外国語学部 データサイエンス (金学科)	臨床心理学専攻 統計学 臨床心理学専攻 統計学

さあ、データを武器に、知の世界を冒険しよう！

時代
地域東伊豆町の
ウェルネスツーリズムを
学生が後押し

観光ツアーの企画のため現地の調査を行う学生たち

温泉気分と海の幸を商品化

地域の観光資源に触れながら、心身のリフレッシュや健康の増進を図ろうというウェルネスツーリズム。保健学部と外国語学部が教育・研究と社会貢献の両面の有用性に着目した「杏林型ウェルネスツーリズムプロジェクト」が始まっています。

杏林大学は、2021年12月、東伊豆町と包括連携協定を結び、温泉を軸にしたウェルネスツーリズムの構築を進めています。活動の中心となっている外国語学部観光交流文化学科の小堀貴亮教授のゼミでは、去年の10月に産官学の連携で温泉の源泉と金目鯛など地域の特産品をセットにした商品「東伊豆版温泉WAKUWAKU」を開発しました。

自宅にいながら東伊豆を旅している気分を味わうことができる温泉旅行体験ギフトです。この事業で、ゼミの学生はセットに加える特産品を選んだり、パッケージのデザインをしたり、また商品をPRするポスターを作ったりしました。商品の売れ行きは好調

で、事業に関わった会社のパルクムとCEKI、そして東伊豆町役場からも、学生たちの取り組みに対して高い評価をいただきました。

身も心も癒す観光ツアーを提言

今、ゼミ生が取り組んでいるのが「ウェルネス」を意識した観光スポットをめぐる着地型観光ツアーの企画です。東伊豆町は日本有数の温泉観光地ですが、近年のコロナ禍において観光業界は大打撃を受けました。そんな東伊豆町を元気にしようと、学生たちはあらゆる世代の方に町を訪れてほしいという地域のリクエストに応えた企画を考えました。

例えば、『東伊豆の歴史文化をめぐり、足湯で癒すウェルネスツアー』は、坂道が多い東伊豆の地形を活かしつつ、町内の歴史文化資源をめぐり、シニアの女性を対象にした健康ツアーです。「お湯かけ弁財門」や熱川温泉発見伝説を示す「太田道灌の碑」などの史跡をめぐりながら、温泉卵を食べたり、土地にちなんだクイズを解いたりレクリエーションの要素を取り入れ、「湯らっく公園」

の足湯をゴールとして疲れを癒すといったツアーです。

また、若い女性を対象に考案した『大自然と旬のフルーツを満喫するビューティーツアー』は、動物園や遊園地があるレジャーランドでウォーキングを楽しみ、そのあと「章姫」や「紅ほっぺ」など、町を代表するイチゴが食べ放題のイチゴ狩りやミカン狩りでビタミンCをたっぷり補給するといった、女性にうれしいツアーになっています。まだ学生たちによる発案段階ですが、これらのツアーがいつか東伊豆町で実現できるよう、町役場観光商工課への提案に向けてさらに企画を練っています。

「保健」×「観光」の連携による
バリアフリー調査を実施！

さらに学生たちは観光振興に大きく影響するバリアフリーの調査も行いました。保健学部リハビリテーション学科の石井博之教授と研究室の学生の協力を得て作った調査票をもとに、旅館や観光施設のユニバーサ

ルデザイン、温泉街の歩道や施設の段差、道幅や標識の位置などを測定し、その結果を考察しているところです。町では学生たちの提案を今後の観光振興の参考にしたいと話しています。こうした活動について、小堀教授は「関わってくださった地域の方々への感謝も込めて、学生と共に、観光客の心と体を健康にする旅、ユニークでワクワクする旅の形を提案していきたい」と話しています。



「東伊豆版温泉WAKUWAKU」では自宅での入浴用に汲んだ温泉2Lが特産品と共に届けられる(上)。学生が制作に参加したPRポスター(左)

TOPICS

あの「クラフトマーケット」、今年は地元も加わり大展開！

去年の11月、総合政策学部と外国語学部の学生たちが中心となり、井の頭キャンパスで「杏林大学クラフトマーケット」が開かれました。このイベントでは、日本各地の食品や工芸品などの特産品を展示・販売し、2日間で5,000人を集める成功を収めました。参加した店舗は、日本航空や三菱地所グループの他、両学部の学生が取り組んだ「CBL」(現地に即向いて地域課題の解決策を探る活動)の「留学先」からの出店でした。キャッチフレーズも「日本全国の魅力をお



2022年のクラフトマーケットの様子

届け」として、「地方の産品を東京で広めるマーケット」という位置づけでしたが、今年はCBLからの店舗だけでなく、本学の地元である多摩地域の店舗も新たに出店し、5月27日(土)、28日(日)に開催されました。

多摩の農家も動かした学生の心意気

学生たちはまずマーケットを運営する組織を作り、事務局、広報局、総務局に分かれて準備作業を行いました。このうち事務局の学生はマーケットに参加する事業者や農家の方々と直接出店交渉を行い、アポ取り、クラフトマーケットの概要説明や、なぜ出店してほしいのかを熱く説明しました。また交渉成立後はイベントでの来場者を想像しながら、どのようなものを販売するといいのかなどについて、出店者の方と二人三脚で打ち合わせを重ねました。その結果、農家や喫茶店を含む計23店舗の出店が決まりました。こうした学生の取り組みに対して、出店を決めた農家の一人は「学生さんたちの姿は頼もしく見えました。若い人の発想で

挑戦されていることに好感がもてました」と話しています。

一方、運営事務局の河瀬貴洋さん(3年)は「授業ではできない社会的な学びのチャンスに自ら飛び込んだことがまさに挑戦でした」。また、事務局の長澤真桜さん(3年)は「地域の方から、また開催してほしいという声を多くいただきました。2回目となる今回はもっとワクワクしてもらえるイベントをめざして取り組みました」と話しました。



杏林大学クラフトマーケットの
詳しい内容はこちらから

時代
地域三鷹の地域振興に
学生が一役

「ミタカビト」をご存じですか？これはインターネットを利用して三鷹商工会の会員のビジネスを後押ししようと2022年度に運営を始めたウェブサイトです。このウェブサイトにはSNSの強力な発信力をプラスしてさらにパワーアップを図ったのが、実は総合政策学部の学生たちです。学生の斬新な発想が地域経済の活性化に貢献しています。

若者を惹きつける
コンテンツが続々

総合政策学部の木暮健太郎教授の元に三鷹商工会から「ミタカビトをSNSで強化したい」と相談があったのが去年の春。教授は社会課題の発見と解決を目指しているゼミの活動と一致すると考えて引き受けました。学生たちが選んだSNSはInstagramとTikTok。ミタカビトのトップページにリンクを貼り、そこから商工会の会員が経営する店や事業所を若者にアピールするコンテンツを添えて紹介しようと考えました。担当することになったのは、レストランや畳店など6店舗。ゼミ生6～7人が1つの店舗を受け持ち、店への取材を重ね、店主にインタビュー

を行い、インスタ映えするよう商品などを撮影。そして、これを引き立てるキャッチーな宣伝文句を考案し、流行の音楽をBGMに使います。ゼミ生が作ったコンテンツはこれまでに80件。その苦心の作品の数々は、右上のQRコードからご覧ください。

三鷹の未来を学生が描く

この活動でイタリアンレストランを担当した池上ひかるさん(3年)は「二か月かけて取り組みました。店員さんの優しさや店内のおしゃれな雰囲気、料理の美味しさをコンテンツに反映できたと思います」と満足気な様子です。ケーキ店を担当した藤貝奏恵さん(4年)は「ケーキの作り方や食べた感想を語



タブレットを使ってSNS投稿用の撮影を行う学生たち

学生の投稿はこちらから



学生が作成したケーキ店の商品紹介(Instagram)



和菓子屋の紹介動画(TikTok)

る食レポを動画で制作しました。また、検索されやすいハッシュタグを用いて閲覧数が増えるように工夫しました」ということです。

一方、学生の力を借りたケーキ店の経営者は「学生さんの食レポからはありのままの素直な感想が人々に伝わったと思います。フォロワーが増えて、実際に足を運んでくれた人

もいて嬉しかったです」と学生の活動に感謝していました。現在一部の事業者と学生との間では、共同で商品開発を行う動きも出ています。ミタカビトのコンセプトは「三鷹の未来をつくる。三鷹の未来を考える」です。今、本学の学生たちが三鷹の未来をつくり、三鷹の未来を考えています。

TOPICS

ようこそ杏林大へ！
新入生向けクラブ・サークル勧誘イベント

クラブやサークルでの活動は、普段の授業では学べない「人間力」を高め、生涯の友人と出会う場にもなります。4月19日から3日間、昼休みの時間を利用して、学生広報スタッフ「MITAI×INOKASHIRA」が主催するクラブ・サークル活動の紹介と勧誘のイベントが、井の頭キャンパスの中庭で行われました。井の頭キャンパスを中心に活動するクラブ・サークルは35団体ありますが、今回はそのうち20団体の代表者が集まり、一緒に活動しようとする新入生に呼びかけました。それ以外の団体は、SNSなどで活動の様子を紹介しました。各クラブ・サークルの紹介は、杏林大学の公式ウェブサイトからも見ることができます。



TOPICS

闇バイトに手を出さないで！
保健学部の学生がキャンパスで呼びかけ

保健学部の津久井桜香さん(3年)と秋田倫花さん(4年)は、今年4月の一か月間、三鷹警察署が募集した防犯キャンペーンのボランティアをつとめました。若い人たちに防犯意識を高めてもらおうという警察署の呼びかけに応じたもので、二人は4月27日、井の頭キャンパスで活動を行いました。この日は、詐欺の受け子や出し子、強盗の実行犯など闇バイトの恐ろしさを訴えるチラシを学生たちに配り、安易に手を出さないよう注意を呼びかけました。

津久井さんは「自分は絶対大丈夫と思っていてもトラブルに巻き込まれるケースもあるので気をつけてほしいです」、秋田さんは「闇バイトについて知ることは自分を守るために重要です。詐欺は、実はとても身近にあるんだということを一人でも多くの学生に知ってもらいたい」と力を込めて話していました。

最近増えている闇バイトについては、学生たちが軽い気持ちで手を出さないよう、本学も学内のサイネージで啓発動画を流したり、ポスターを掲示したりして防犯キャンペーンに協力しています。



時代
地域子どもたちに
がんの理解を深める
教育を

「がんの初期症状はどんなもの?」「子どもでもがんにかかりますか?」。去年の10月、医学部付属病院 腫瘍内科の長島文夫教授が泊江市の中学校で行ったがん教育の授業では、参加した生徒たちから次々と質問が上がりました。授業に参加したおよそ130人の生徒たちは熱心にメモを取りながら45分間の説明に耳を傾けていました。

専門職の協力体制で
わかりやすい授業に

杏林大学と医学部付属病院では、2021年から子どもを対象としたがん教育に取り組んでいます。これはがん対策基本法に基づき厚生労働省が進めている「がん対策推進基本計画」に沿ったもので、国民の2人に1人ががんになる現代社会において、がんの予防促進、患者と家族の苦痛の軽減、がんになっても安心して暮らせる社会の構築などを目指したものです。その一環として、子どもにがん教育を行うことで、早い段階から知識や予防意識を高めたり、がん患者が家族にいる子どものケアにつなげたりすることを目的として、全国で開始されています。東京都でも都内の特定の病院に協力依頼を行っており、「地域がん診療連携拠点病院」である当院では、これまでに立川市や小平市など6つの中学校・高校で合わせて1,000人以上の生徒に授業を行いました。

中心となり取り組んでいるのは、長島文夫教授をはじめとする腫瘍内科、小児科の医師、病院の事務職員です。中学生・高校生を対象とした授業では腫瘍内科の医師が、また小学生などに向けては、小児科の医師ががんの解説を行います。そして、がん治療が高額な医療費を伴い、生活を圧迫することもあるため、事務職員が公的な医療費支援制度などの説明を行います。この取り組みを開始するにあたっては、子どもや若者にどのようにわかりやすく医療の話をしたらよいのか、保健学部看護学科の中島恵美子教授



iPadでダウンロード
できるアプリ「がんを
知る」



去年12月小金井市の高校では全校生徒630人に授業を実施



長島教授(右)と共に教育活動をする
病院職員の橋詰課長

が、看護師の視点やゼミの学生たちが若者に行った調査結果などを元にしながらアドバイスをを行いました。

教育効果を高める
アプリを制作

長島教授は、子どもたちにがんの教育効果を高めるため、あらかじめ予備知識を問うアプリを制作しました。事前の知識量を把握した上で、授業の準備を行うと共に、「日本人の2人に1人ががんになるって本当?」などと、親しみやすい問いをクイズ形式で楽しむことで、がん教育の導入につなげることも目指しています。長島教授は、「デジタル世代の子どもたちは、座学で説明を受けるだけでなく、タブレット端末などを使いながら学習する方が主体的に学ぶことができる。現在は10問ほどの簡単なアプリだが、今後情報量を増やし、充実した教育コンテンツにしていきたい」と話しています。

アプリと対面の授業を通して、がん教育を

学んだ子どもたちからは、「がんは2人に1人がかかると知って驚いた。生活習慣が大切だということなので食事に気をつけたい」「がんになった家族がいるので、授業の内容を家族に教えてあげたい」「高額な医療費を免除する保険制度があるとわかって安心した」など、新しい知識を得られたことへの感想が聞かれました。

広がり見せるがん教育を
本学も支援

小学生から高校生を対象としたがん教育は、今後全国で広がる見通しです。長島教授は、「当院に対しても、2023年度は現時点で、小学校から高校まで6つの学校から合わせておよそ900人を対象に授業の実施依頼が寄せられている。院内での協力体制も広げながら、今後も可能な限り子どもへのがん教育に貢献していきたい。将来の職業として医療分野に目を向ける機会になれば」と今後の抱負を語っています。

TOPICS

作業療法の学生がアメリカの院生と交流

今年3月に南カリフォルニア大学(USC)の作業科学・作業療法学部の大学院生4人が本学で2週間の研修を行い、リハビリテーション学科 作業療法専攻の学生たちと交流しました。

USCは作業療法学分野でアメリカの名門と言われ、卒業生である近藤知子教授が中心となって2018年度から相互に受け入れる研修プログラムが始まりました。コロナ禍により中断されていたこのプログラムは、今年3年ぶりに受け入れが再開されました。プログラムでは、学生が実習設備や福祉機器などをUSCの学生に説明したり、一緒に障がい者の就労施設でチラシの封入作業を行ったりした他、リハビリテーション施設を見学するなどしました。また、学生の企画による文化交流会も行われ、作業療法でも用いられる剣

玉や書道などをUSCの学生に体験してもらいました。USCの学生たちは日本の文化を楽しむと共に、高齢化が進む日本独自の介護保険制度の仕組みなどに関心を寄せていたということです。

参加した上田桜花さん(3年)は、「同じ作業療法士を志す者として、英語があまりできなくてもコミュニケーションを取ることができ、自分の中にあつた外国に対する垣根が消えた気がします。USCの皆さんは、日本の補助具付きトイレの操作方法を素早く理解するなど、知識や経験が豊富だと感じました。来年春にはUSCでの短期研修に参加したいと思っています」と短期交流の貴重な体験を噛みしめていました。



時代
地域子どもの人生に
寄り添った医療を

「渡邊先生がいるから今の私がいます。渡邊先生大好きです」。患者さんからの微笑ましい手紙を嬉しそうに読み返す学内講師の渡邊佳子医師。小児外科医として、主に0歳児から15歳までの子どもを診療し、その数は年間およそ4,000人にもおよびます。鼠径ヘルニア(脱腸)、臍ヘルニア(出べそ)といった比較的軽い疾患からヒルシュスプルング病といった希少疾患まで、子どもの様々な疾患に対応し、手掛ける手術は年間およそ250件にもなります。さらに渡邊先生の仕事は院内に限りません。八王子市に向いて医療的ケア児の訪問診療を行ったり、病院を舞台にしたドラマ番組の監修を行ったりと東奔西走の日々を送っています。



大切に保管している患者さんや保護者からのお礼の手紙

杏林大学医学部 小児外科学教室
学内講師

渡邊 佳子 (わたなべ よしこ)

1996年 杏林大学医学部卒業

杏林大学病院小児外科入局

1999年 東京都済生会中央病院外科

2001年 杏林大学医学部着任

モチベーションは
子どもの笑顔

脳、心臓、骨以外のほぼ全ての疾患を診る小児外科医療は、他の分野と比べて医師が少なく、中でも小児外科医は全国でわずか2,000人と深刻な医師不足となっています。

小児医療は、全身におよぶ様々な疾患を扱い、また子どもは自分の症状や不安な気持ちなどを言葉にできないことも多くあるなど、難しい分野でもあります。この医療現場で30年近くにわたって活動してきた渡邊先生。その原動力は「子どもが好きだから。治療後の子どもの笑顔が励みになるから」だそうです。そして、治療は長期間におよぶことが多いため、成長と共に、進学や就職、

結婚、出産など患者さんの人生に寄り添った医療サポートを心がけていると言います。

恩師との出会い

渡邊先生が医師を目指したきっかけは、「中学生の頃に母がくも膜下出血で倒れ、命を救ってくれた医師が神様のように見えたから」だということです。そして杏林大学病院に入院した叔父から良い病院だと薦められて本学に入学。その後、恩師となる伊藤泰雄小児外科教授(現名誉教授)と出会いました。当時、小児外科は外科教室の一分野でしたが、伊藤教授は小児外科学教室の独立に大きく貢献しました。道なき道を切り拓く伊藤教授の情熱に心を惹かれた渡邊先生はその背中を追って小児外科医の道に進むこ

とになりました。子どもたちの命を救い、人生の伴走者となる渡邊先生の優しさや情熱は、本学医学部の歴史の中で育まれたものだったとも言えます。

テレビを通して
小児医療を啓発

「小児医療をもっと一般の人に知ってもらいたい。将来、小児医療を目指す若者が増えてほしい」という熱い思いもあって、渡邊先生は小児医療ドラマの監修にも協力しています。2018年に放送されたフジテレビのドラマ「グッドドクター」では、同科の浮山越史教授と医療監修を担当しました。また、浮山教授の提案でドラマ化した小児集中治療室を舞台とした2022年放送の同局ドラマ「PICU」

でも、病院での撮影現場に立ち合って医療監修にあたりました。そして、渡邊先生は去年の12月、今度は自らテレビ番組に出演しました。その活躍ぶりがフジテレビのドキュメンタリー「セブンルール」で取り上げられ、子どもたちの命に真摯に向き合う渡邊先生の姿は大きな反響を呼んで番組の年間視聴率の第1位を記録しました。渡邊先生がテレビ番組を通じて広める小児医療の大切さや尊さは全国の大勢の人々の記憶に深く刻まれています。



子どもが心を開けるよう小道具で工夫

TOPICS

英国での医学英語セミナーに学生35人が参加

医学部には「グローバルに活躍できる医師」の育成を目的とした、海外研修プログラムや医学英語を実践的に学ぶカリキュラムがあります。そのうちの一つ、英国のイングリッシュにあるレスター大学での医学英語セミナーが、4年ぶりに2月20日から3月10日にかけて行われ、1年生から4年生までの35人が参加しました。セミナーは杏林大学独自のプログラムで構成され、英語でしかコミュニケーションが取れない患者さんに問診をするケースを想定したり、国際学会の発表などによく使われるポスターを活用したプレゼンテーションを行ったりと実習形式で行われました。

参加者の中には、入学前からこのセミナーに参加するために英語を勉強した学生、6年次の臨床・クラークシップ(診療参加型の臨床実習)を海外で受けたという学生、米国で医療行為を行うために必要

な資格の取得を目指す学生のほか、将来は国境なき医師団で働きたい、日本で外国人の患者さんを正確に診断できるようになりたい、という学生もいました。明確な将来目標を持ち積極的に学ぼうとする学生が多く、「ポスター発表では自分の言葉でプレゼンテーションをする力や間違いを恐れずに発言することが大切だと感じた」などという感想が聞かれました。

こうした学生たちの姿に医学教育学教室の矢島知治教授は「セミナーを通して、学生たちは聴く力や伝える力を鍛えられ、英語力の向上を実感できたと思います。自らの成長も感じたことでしょう。モチベーションを維持して良医名医への道をひた走ってもらいたい」と話しています。



レスター大学



授業の様子



ポスター発表

時代
地域児童に朝ごはん提供
地域の子どもたちの
成長をサポート

炊き立てのご飯とみそ汁の香りが立ち込める中、次々とおにぎりが完成し、大皿に手際よく並べられていく。3月13日(月)、三鷹市立中原小学校の家庭科室で午前7時から始まった朝ごはんづくりが大詰めを迎えた頃、「塩むすびを追加してください!」「もう少し味噌を足しましょう!」とボランティア・スタッフにテキパキと指示を出す加藤雅江教授の姿がありました。「子どもたちに朝食を」という教授の熱い思いが、地域の子どもたちの成長をサポートしています。

子どもの欠食の背景に
コロナあり!

去年の春、加藤教授が目にした光景です。朝の9時近い時間帯に通勤途中に見かけた子どもたちに元気がなく、「遅刻しちゃうね?」と声をかけると「学校に行ってもつまんないし、一人だし」という声が返って来ました。気になって一緒に学校まで歩く道すがら聞いてみると、朝ごはんを食べておらず、夜遅くまで起きていることがわかりました。

子どもの朝の欠食は以前からあり、その原因や背景は様々ですが、ここ数年の特徴としてコロナ禍が関係しているケースが少なくないということです。パソコンやスマホを使った親のテレワークや子どものゲーム遊びなどが長時間化し、家族の生活スタイルや食習慣にも変化が起きているのです。加藤教授はそうした事情に気がついて、「これは何とかしなくては!」という思いを強くしました。



「おいしかったですか?」の質問に一齐に手をあげる子どもたち。後ろのテーブルでは、おかわり用のおにぎり作りが続いている(写真の一部を加工しています)



特大の炊飯器と鍋でおにぎりともそ汁が準備された

杏林大学 保健学部 健康福祉学科
教授 加藤 雅江 (かとう まさえ)

杏林大学医学部付属病院で精神保健福祉士として勤務。2020年6月より現職。精神保健、福祉、子どもの虐待防止活動など多方面で活躍。

地域の協力で
朝ごはん提供が実現

実は加藤教授は2016年8月から三鷹市中原地区で、放課後の子どもたちを対象に食事や学習の支援などを目的とした活動を行っています。この活動はNPO法人「居場所づくりプロジェクト だんだん・ぼあ」として地域住民や学生ボランティアとともにやっているもので、今回はこの活動に朝ごはんの提供が加わった形です。新しい試みのため、加藤教授は三鷹市や教育機関に協力を求める一方、一緒に活動してくれるボランティアを集めるために奔走しました。幸い中原小学校が理解を示し、教室の提供、備品の貸し出し、保護者への連絡など学校をあげて協力してくれました。また地域で長く活動するボランティアの人たちも趣旨に賛同して参加してくれました。さらに活動を知った市内の農家から野菜が届き、知人からはお米が届き、地元企業からは寄付金や調味料が届きました。

子どもの様子に変化の兆し

朝ごはんの提供はこれまでに4回行われ、

合わせて591人の子どもたちが友達と一緒に朝の楽しい時間を過ごしました。

これまでの活動を振り返って、学校の関係者は、「朝食を食べないで登校していた児童の中には、授業に集中できない、給食までお腹がもたない、元気がなくて休み時間に友だちと遊べないという子どもたちもいましたが、朝食提供が始まってからは、元気に教室に向かう姿が見られるようになった」「学年を跨いで分け隔てなく集える場にもなっている」と話しています。また、週末に生活リズムが崩れて学校へ行くのがキツイと感じる子どももいる中、週明けの月曜日に活動が行われることで、通学のハードルを低くする面もあるようだという事です。

今、加藤教授の頭にあるのは、この活動をいかに継続していくかです。費用を抑えて活動を続けていくためには多くの人々の長期的な協力が欠かせません。子どもたちは未来の財産と訴えて、地域全体を巻き込んだ活動に発展させていきたいと意気込んでいます。

TOPICS

杏林大ボッチャ部 全国大会で優勝!

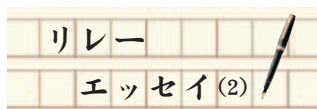
3月11日~12日に武蔵野総合体育館(東京都武蔵野市)で行われた「ボッチャ東京カップ2023」(一般社団法人日本ボッチャ協会開催)で、杏林大学ボッチャ部が優勝を果たしました。メンバーは保健学部 リハビリテーション学科理学療法専攻の白鳥聖也さん、内藤悠熙さん、久保直也さん(ともに3年)、大泉泰生さん(2年)の4人です。

大会には、日本ボッチャ選手権など全国各地で行われた16の大会で勝ち抜いた32チームのほか、2020東京オリンピック・パラリンピックでの金銀銅の各メダリストたちも出

場しました。杏林大学チームは、決勝で西日本大学選手権の優勝校の大阪公立大学と対戦し、最後の第4エンドで劣勢を挽回して見事逆転優勝しました。

理学療法専攻では、理学療法士の視点から障害者スポーツを授業にも取り入れており、この専攻の学生を中心としたボッチャ部では、競技に出場するだけでなく、日本ボッチャ協会公認の審判員の資格を取得して大会の運営に携わるなど、ボッチャ競技の普及に取り組んでいます。





前号からスタートした「リレーエッセイ」では、毎回 杏林大学の先生たちに日頃の授業では取り上げない話題や知識、見聞などを自由気ままに書き綴っていただきます。今回は、総合政策学部の糟谷崇准教授によるビジネス映画のお話です。

“ビジネス映画”の醍醐味

皆さん、「ビジネス映画」というジャンルについてどう思われるでしょうか？映画のジャンル分けといえば、アクション、SF、アドベンチャー、ファンタジー、ホラー、ミステリー等々が思い浮かぶと思います。厳密には「ビジネス映画」というジャンルはメジャーな括りではないし、おそらく多くの人は内容が難しそうという印象を受けるのではないのでしょうか？

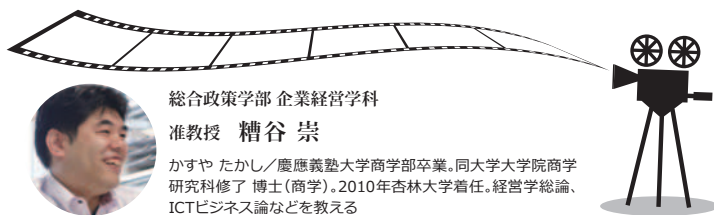
「ビジネス映画」というワードで検索をかけると、「起業家・経営者におすすめの・・・」というサイトが上位にくるため、敷居が高く感じられます。よくあるスタイルは実在の実業家(S.ジョブズやM.ザッカーバーグ)を描いたものや実在の組織(Googleやアスレックス)をテーマにしたものです。こうした作品は対象となる人物や組織について興味を持てるかどうかで鍵となります。

そうした中で、ぜひ多くの人に体験してほしい楽しみ方が、「ミステリーやサスペンスとしてのビジネス映画」というジャンルです。映画ではありませんが、「半沢直樹」という作品は聞いたことがある人も多いと思います。主人公の銀行員のピンチからの逆転劇、そして勧善懲悪というわかりやすいストーリーがヒットの理由と言われています。

そんな「半沢直樹」の原作者である池井戸潤の作品は数多く映画化されています。もともと彼は江戸川乱歩賞でデビューし、その作品はミステリーやサスペンスの手法で書かれているため、ビジネスに関わる用語を知らない人でも、テンポ良く展開するストーリーを楽しんでもらえると思います。例えば、(実際のリコール隠し事件を題材としている)「空飛ぶタイヤ」では、終盤の巨大企業の闇が暴かれていく様子は実に爽快なものとなっています。

池井戸作品の複雑に絡み合った状況がひとつの出来事をきっかけに一気に解決に繋がる様は、経営学で新興企業のビジネスモデルを考察していく過程にも通じるものがあります。

ビジネスには勝ち筋はあっても正解はありません。経営学を学んでいると、成功に至る道筋が見えた時にワクワクして身震いする感覚を覚えることがあります。池井戸潤の映画化作品では終盤からラストにかけて同様の感覚を味わうことができます。こうした体験こそが「ビジネス映画」の醍醐味であり、経営学に関心がない人にも「ビジネス映画」を通じて、そうした部分を感じていただきたいと思います。



総合政策学部 企業経営学科
准教授 糟谷 崇

かすや たかし/慶應義塾大学商学部卒業。同大学大学院商学研究科修了 博士(商学)。2010年杏林大学着任。経営学総論、ICTビジネス論などを教える



写真と年表で振り返る 学園の歴史展示パネルがお目見え



本学の歴史を短時間で学びたい人はここに来るのが一番です。去年の春に完成した三鷹キャンパスの医学部講義棟A3階に、今年3月、学園の歴史を紹介する展示パネルが設置されました。井の頭キャンパスのC棟2階には歴史展示コーナーがありますが、三鷹キャンパスにはそうしたものがなかったため、新たに設けられました。

展示は「杏林の由来や創立者である松田進勇の医学部開学宣言、建学の精神と共に、1953年の創立前史から現在に至るまでの流れを「草創期」「整備期」「拡大期」「成長期」「飛躍期」そして未来へ」の5期に分けて写真と年表で説明しています。また、パネルには校歌(作詞 池田文雄、作曲 古閑裕而)の歌詞と共にQRコードが記され、その場で校歌を聴くことができます。

デザイナーは「杏の林をイメージした」ということで、パネルの背景には木目の美しいナラ材196本が使われ、楕円形の独立した3枚の化粧板と、重なり合う5連の化粧板で構成されています。3枚の化粧板のベースには杏の実と葉の美しい画像が描かれ、5枚の化粧板の上部には杏の実が熟していくように緑から橙へと移ろう着色が施されています。杏の持つ優しさや温かみを感じながら、本学の発展の歴史をたどることができます。

健康ひとくちメモ ㊟

子どもを育てる「遊び」

今回の「健康ひとくちメモ」はコロナ後の子どもの健康に焦点を当てます。実は、コロナ禍で強いられ多くの行動制限が子どもたちの体力低下をもたらしているとの報告があります。そこで、こうした子どもたちの体力の回復や心の成長にも効果がある「遊び」について、保健学部の岩崎也生子准教授に語っていただきました。



遊びと脳の発達

子どもの脳の神経系は乳児期に大半が作られ、10歳ごろまでには大人と同程度まで形成されます。このため、乳幼児期に手足をたくさん使い、難しい遊びに果敢にチャレンジしていく経験が、四肢や体幹の大きな運動はもちろん、字を書くような手先の細かな運動、それに言葉や社会性の発達にも重要な役割を果たします。

素晴らしき遊びの世界

では、どんな遊びがよいのでしょうか。実は特別なものではなく、ブランコや滑り台、ジャングルジム、鬼ごっこなど公園でできる月並みな遊びです。親子でバドミントンやキャッチボールも良いですね。ブランコは腹筋や背筋、バランスなどが鍛えられるほか、並んで順番を待つ「社会性」も身につきます。大人と一緒に座ったり、背中を押したりすることでスキンシップも図られます。ジャングルジムは手足を協調的に動かす、自分の体の大きさや力の強さを考えながらどうしたら上に登れるか戦略を立てる、そして登る時のチャレンジ精神や登れた時の達成感なども含まれます。バドミントンやキャッチボールは、相手の取りやすいところに、加減して投げる・打つという要素が加わります。こうした遊びを通して、身体の使い方、目の使い方、距離感、相手の気持ちの理解などを育んでいくことができるのです。

さあ、公園に出かけよう！

家族や親せき、近所の子どもと一緒に公園に出かけてみませんか？心地よい程度の運動は大人の脳にもよい刺激を与えます。一緒に公園に出かけ、大人も子どももコロナ禍で鈍った心と体を生き返らせましょう！



保健学部リハビリテーション学科

作業療法学専攻 准教授 岩崎 也生子

いわさき やおこ/茨城県立医療大学作業療学科卒業。筑波大学大学院教育研究科リハビリテーションコース、京都女子大学発達教育研究科教育学専攻博士後期課程修了。専門は脳損傷患者の認知機能障害、小児期高次脳機能障害、神経発達に関する研究。2016年杏林大学着任

今年度も放送継続！ケーブルテレビ番組「学びの杜」大学ウェブサイトのアーカイブも豊富に

杏林大学は、2021年度から本学の特色を活かした医療系・人文社会科学系の市民講座「学びの杜」を、ケーブルテレビJ.COM武蔵野・三鷹で放送しています。今年度も6月から新作を放送します。放送後の講座は、アーカイブとして杏林大学ウェブサイトでも公開していますのでお楽しみください。

【当面の放送予定】

6月：「たばこの害と禁煙の重要性」

医学部 石井晴之 教授

7月：「短歌を楽しもう！(2)」

～長寿の歌人の作品～

外国語学部 河路由佳 特任教授



アーカイブの講座はこちらからご覧いただけます



杏林大学新聞 読者アンケートにご協力ください

皆様から寄せいただいた感想など今後の紙面づくりの参考とさせていただきます。



アンケートの回答はこちらからお願います

編集を終えて

- ・号中で特集したデータサイエンスの活用や医療貢献・地域貢献などの取り組みは、まさにVUCA(変動性が高く、不確実で複雑、さらに曖昧さを含んだ社会の状況を表す造語)の時代を生きている私たちが直面する社会の課題解決のために非常に有益なものばかりです。いずれも明るい未来のために本学教育のあるべき姿や進むべき方向性を示唆しながら、その根拠に「科学と人間への温かみ」を込めて、世のため人のために」との熱い思いを感じました。(編集長)
- ・今回の編集後記は「Chat GPT」に書いてもらいます。以下、「時代と共に 地域と共に」をキーワードにして生成した文章です。「この新聞記事は、時代の変化と地域の連帯に焦点を当てています。私たちは現代社会が急速に変化する中で、地域の絆を大切にすることが必要を感じます。この記事を通じて、読者が自分たちの地域とのつながりを再認識し、共に成長していく意識を持つことを願っています」だそうです！(広報室長)

杏林大学新聞 編集長 志村良浩 / 広報室

TEL.0422-44-0611 E-mail koho@ks.kyorin-u.ac.jp URL https://www.kyorin-u.ac.jp/